

スポーツによる震災復興の可能性と今後の課題について

山本 泰平 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 金森 雅夫

キーワード：震災,復興支援,スポーツ

1. 緒言

2011年3月11に東日本を襲った未曾有の大震災は甚大な被害をもたらした。もとの生活を取り戻し、町を再生していくには莫大な資金と時間、人の支えが必要であり、震災によって生きる希望や夢、生きがいを失った人達への支援や病気の予防などを含めた震災復興支援活動が必要となる。その中で、スポーツの復興支援活動に焦点を絞り、復興支援の可能性と今後の課題を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

震災復興とスポーツに関する文献を論文検索システムにて収集し、それを用いて研究する。

3. 結果及び考察

スポーツと復興支援活動において、義援金はチャリティーイベントなどスポーツが持つ集客の力によって、スポーツ界だけで数十億にのぼった。そして、なでしこジャパンの世界一は被災した人々に感動と勇気、そして夢を与えることができ、日本人が日本という国に誇りを持ち、一体感を持つことが震災復興の大きな力になった。また、被災地の子共達とスポーツ選手との交流によって、被災地の子どもたちは笑顔を取り戻すことができた。

スポーツ施設は避難所・防災拠点として重要な役割を担うことがわかった。しかし、資金面や施設整備への理解を高めるといった課題が挙げられた。

スポーツは積極的休養の柱となり、震災後の心と体のケアに重要な役割を担い、エコノミークラス症候群の予防に運動指導が効果的であることがわかった。

総合型地域スポーツクラブの活動はシステムとして持っている能力の中に、行政の支援が行き届かない住民や個人的なニーズにも柔軟に対処し、的確でタイムリーな支援活動を行う事ができる力があり、復興に極めて重要な役割を果たすことがわかった。

スポーツを復興段階ごとに分け活動時期を考察すると、直接スポーツ活動を用いて支援することは、震災から一週間以内の救援期では求められず、一週間以上経ってから増え始め、長い期間での密接な支援が求められるようになることがわかった。その中で、総合型地域スポーツクラブはどの段階でも、柔軟に的確な活動を行っていることがわかった。

4. まとめ

震災復興支援の可能性は多様にあり重要な役割を担っていることがわかった。そして施設の整備など多くの課題が挙げられた、今後、スポーツの可能性を社会に周知させていくことが重要だ。

引用・参考文献

藤本宏美[他] (2012) 地域におけるスポーツ復興支援活動スポーツ産業学研究 22(1)219 - 226

野川春夫[他] (2012) 防災拠点としての役割を考える sports facilities 41(10), 6-10